

# 自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 23, No. 4 神奈川県立生命の星・地球博物館 Dec. 2017



## トキ

*Nipponia nippon* (Temminck, 1835)

写真: KPM-NQB 187\*

2008年 第1回放鳥個体・オス

新潟県佐渡市

2009年6月15日 重永明生 撮影

かとう  
加藤 ゆき (学芸員)

※当館電子台帳上の資料番号はゼロを付加した  
6桁の数字で表記されます

トキはかつて東アジア一帯で普通に見ることができました。日本では北海道から九州までほぼ全域に生息し、水田でタニシやドジョウなどを食べ、雑木林をねぐらとして繁殖もしていました。

しかし19世紀半ば以降、全ての生息地で数が減り始めました。日本では森林伐採や開墾等により生息環境が悪化し、羽や肉を目的とした乱獲もあって減少しました。1981年には野生個体5羽すべてを捕獲し、飼育個体1羽と共に人工繁殖を試みましたが失敗し、2003年まで

に日本産のトキはすべて死亡しました。

絶滅と前後してトキ野生復帰事業が始まりました。1999年に中国から受贈した個体を飼育下で増やし、2008年から佐渡島で毎年放鳥を続けました。その結果、2012年には野生下で雛の巣立ちが確認され、その後も雛が毎年誕生しています。野外で生まれた雛には放鳥個体のように足環や送信機が付いていません。このまま順調にいけば、足環も送信機も付いてないトキを身近で見られる日もそう遠くはないでしょう。